

児童登校「久しぶり」

福井市で一時預かり開始

新型コロナウイルス感染拡大で新学期の始業が延期となる中、福井市の小学校で9日、日中に保護者が不在となる児童の一時預かりが始まった。児童は、感染防止対策が取られた学校で宿題や読書、運動に取り組んだ。新1年生も含まれており、

入学式前に学校で過ごすことになった。5月1日まで。市教委は、9日以降の休校期間は小中学生は自宅で過ごすよう求めている。一方、放課後児童クラブ登録者ら、保護者が仕事などで日中に不在となる児童は、小学校での一時預かりを認めた。



間隔を空けて座り、宿題などに取り組む児童＝9日、福井市木田小

時間は、1年生が正午まで、2年生以上が午後3時まで。この日、木田小には154年の74人が登校した。マスク姿の児童は学年別に教室に入り、間隔を空けて宿題などに取り組む。グラウンドで体を動かした。4年生女子は「久しぶりに学校に来ることができてうれしかった。早くみんなに会いたい」と話していた。

同校は教室の定員を15人以下とし、換気や下校後の消毒も徹底する。単守俊彦校長は「一部ではあるが、子どもたちの元気な姿を見ることができて一安心。校内で感染が起きないように万全を期したい」と語った。市教委によると、9日午前9時時点で48校の1256人が登校した。県教委によると、福井市を含む県内の全17市町が放課後児童クラブか学校での日中預かり、時間帯を分けた両施設での預かりを行っている。9日午前9時時点で、県内で約4500人が利用した。(菅野佑斗、栗原愛)